

毎月1回25日発行

第3種郵便物認可(昭和31年3月28日) ①

# 山と博物館

第5巻 第4.5号

1960年5月25日



トガクシショウマ

白馬山麓にて

大町山岳博物館

# 野鳥の巣箱について

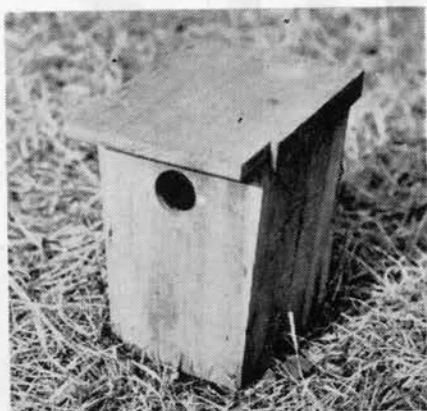
手塚映男

## 1、野鳥の巣箱とはどういうものか

美しい鳴声をもって、私たちの生活にうるおいをもたらしている野鳥が、害虫をたくさん食べ、森林や農作物など人々の生活に欠くことのできない天然資源を、各種の災害から守ってくれていることは、みなさんも承知していることと思う。これらの野鳥が巣を作る場所は、木のほら穴、枝、草むらなどいろいろあるが、このうち、木のほら穴などに巣を作る野鳥に、人間が自然木にできたほら穴の状態に似せたものを作ってあたえたならば、自然木のそれよりも居心地がよく、野鳥が利用するのではないかという思いつきから考えだされたのが、巣箱である。そして実際に巣箱を作って木にかけた結果、なかなかよく利用し、それによって巣箱をかけた果樹園だけが害虫の被害からまぬがれたとか、あるいは防雪林が枯れないで災害を防ぐことができたというような実例が諸外国でもたくさん報告されている。このように巣箱は野鳥にクすみカクをあたえるものであると同時にまた、今までともするとわかりにくかった繁殖期の野鳥の生態を観察することができるものとされている。すなわち我が国では現在までに、シジュウカラやヤマガラなどのいわゆるカラ類、ムクドリ、コムクドリ、フクロウの類、キツツキの類など、約21種類の野鳥が巣箱を利用することを認められているが、巣箱をかけてやるとこれらの野鳥のうちシジュウカラを例にとると、どこから集めてくるのか馬のしっぽの毛、ぜんまいの綿、こけなどを使ってたくみに巣を作り、かわいらしい卵を7個から12個もうみ、それを抱卵してひなにかえし、たくさんの害虫をとってきてひなを育て、利用しはじめて約1カ月位すると親子そろって巣立ちして行く。この間のようすをつぶさにとらえることができるのである。したがって巣箱を作ってかけることは、野鳥をふやすとともに、観察によって得た正しい知識をもとに、野鳥に対するよき理解者となることができるので、野鳥愛護のもっともよい方法の一つであるといえる。以上で巣箱に対するおおよその概念はつかめたと思うが、さらに巣箱そのものについて少しのべると、まず巣箱にはいろいろの型がある。利用する野鳥の大きさから、シジュウカラとその仲間用、むくどり用、おしどり用、きつつきの仲間用などがあり、また型は、屋根型（住宅型）、片屋根型、筒型（丸太型）などがある。更に巣箱には中を掃除し観察するための開閉装置（観察装置）、動かないように木にとりつける。

とりつけ装置（そえ木）、中に入ってしまった水を出す排水口など、それぞれの役目をはたすのに都合のよい

ようにしくみを工夫した装置をそなえている必要がある。これについてはつぎの作り方のところでのべることにする。



シジュウカラ用巣箱（文部大臣奨励賞）

## 2、巣箱の作り方

巣箱を作るにはどうしたら良いかそれにはまず利用させようと思う野鳥の種類をきめなければならないなぜならばつぎの表のように野鳥の種類によって、大きさの基準が異なるからである。

この基準になる数字は、実際に野鳥が営巣した多くの自然のほら穴を調査したことから割り出したもので、この標準にもとずいて作った巣箱が利用率の高いことが認められているしたがって、利用させようと思う野鳥の種類をきめ、大きさをよく検討してから工作にとりかかる必要がある。つぎに工作するにあたって注意する点を順を追ってのべようと思うが、キツツキ類の巣箱は特殊な作りかたを要するので省略し、つぎの機会にのべたいと思う。

（1）材料 材料は長い間、風雨あるいは外敵の攻撃に耐え得る丈夫なものをえらぶことがかんじんである。といって巣箱を作るためにわざわざ新しい板を買う必要はなく、製板の際に出る切りくずでも良い。あるいはまたあきかん、アスベストの煙突の輪切りにしたものなどでも、うまく工夫すれば、木で作った巣箱に劣らないのことができる。巾15cm、長さ134cmの1枚の板を材料としてシジュウカラ用の巣箱を一個作ることができる。

（2）出入口 出入口は巣箱をつくるにあたりいちばんたいせつなところで、これがよくできているかどうかによって、その巣箱を野鳥が利用するかどうかきまるといっても過言ではない。ことにシジュウカラ用の場合2.8～3cmなど、こんなに小さなもので野鳥が入るかどうか疑問に思うだろうが、実際に観察してみると野鳥は実にうまくとびこむものである。また出入口の位置もたいせ

## 巣箱の大きさの標準

鳥の種類	巣箱の巾	巣箱の奥行	巣箱の高さ	底から出入口までのたかさ	出入口の大きさ
しじゅうから そのよなびか ま	12~14cm	12~14cm	20~23cm	15cm内外	2.8~3.0cm
むくどよ こむくど り	15~17cm	15~17cm	28~40cm	18~22cm	4~6cm
きつつき類 {こげら あかげら あおげら やまげら	ほら穴のもつとも 太いところの 直径	11cm内外 13cm // 17cm // 17cm //	28~30cm 33~35 37~40 37~40	15cm 23 30 30	3cm内外 4cm // 5cm // 5cm //
おしどよ あおよば りびすく	20~30cm	20~30cm	45~55cm	25~30cm	9~10cm

つである。

(3) 開閉装置(観察装置) これは前にのべたように野鳥が巣箱を利用していない時期に中を掃除したり、また利用しているようすを観察したりするためのもので、開いたときに、なるべく広い範囲が見られるように(たとえば屋根がすっぽりとれたり、前板が開くようにすることがたいせつである)この場合、からすやねこのいたずらはかなりひどいものであるから、これらの外敵にふたをあけられないように、しっかりしたとめがね、あるいは装置をつける必要がある。

(4) とりつけ装置(そえ木) 巣箱を木にとりつけた場合、動くようでは野鳥はなかなか利用しない。これを防ぐためのもので、2本の棒をつけるだけでも、巣箱は木に固定する。

(5) 雨水などが入らないように工夫すること。巣箱の中に雨水などが入ったために、野鳥が営巣を途中でやめてしまった実例がたくさんある。こんなことがないよ



しじゅうから用巣箱(文部大臣奨励賞) 面はできるだけ

自然状態に似せることが、かんじんである。したがって材料の板にかななをかけたり、赤や青のペンキをぬったりすることは、さげなければならぬ。

普通もちいられている方法としては、表面に杉皮などの木の皮をはったり、泥をぬったり、あるいは表面を火でこがすことなどがある。

(7) その他工作上的の注意 (2)から(6)までのべたことは、主として巣箱に付属する装置に関係することであるが、そのほか各種の工作物同様、木目、釘の使い方、板のあわせ目などにすき間ができないように注意しなければならないことは当然である。またよく巣箱の前面に、野鳥が入りやすいように、とまり木やふみ台をつけたのがあるが、これはかえって外敵の侵入いたずらの足場となるものであるからつけない方がよい以上巣箱を作るにあたって注意する点を述べたが、要は大きさの標準と、巣箱として催えるべきしきみを理解しさえすれば、あとは自由な着想を生かし、自分の好きなように工夫をこらして作ってさしつかえないものである。

3. 巣箱のかけかた 巣箱をかけるときに考えなければならない要点は場所の選定ととりつけかたである。まず場所であるが、野鳥のたくさん集まる所をえらぶことが大切である。そして同じ林でも野鳥のたべそうな実のなっている木などの生育している所、比較的明るい林、あるいは林の中よりも林のふちなどのような、前方になにもない開けた所のほうが良い。つきにとりつけかたについてのべると、巣箱をかける高さは、それぞれの鳥によって異なる。またかけようとしたところに、ちょうど枝があるような場合は外敵を防ぐ意味から枝の下にかけるように心がける。巣箱のむきは特にきまてはいないが、なるべく西日のあたる方向はさけた方がよい。さらに雨水を防ぐために巣箱をやや前かがみにつけることも忘れてはならない。なお巣箱をかける時期は、3~4月の野鳥が繁殖期に入る前がよい。(国立自然教育園学芸員)

## 顕微鏡による岩石薄片の観察 (3)

## 岩石の構造 太田昌秀

## 【変成岩とは】

一度、固くなった岩石が、そのできたときと違った条件にさらされると、だんだんに変化して、新しい条件に合った性質になってゆく。岩石が風化して、砂になって崩れる過程も、大きくみれば地表という新しい条件によって、一度できた岩石が変化する過程であるが、これは変質作用と呼ばれる。これとは逆に、一度地表又は地表近くで冷え固った岩石が、何かの変動のときに、地下深くへまで押し込まれたり、地下深くから上ってくる物質の影響を受けたりすると、岩石の中には著しい変化が起る。このような変化を起す作用を変成作用といふ、その結果できた岩石を変成岩という。だから火成岩や水成岩と変成岩の基本的なちがいは、火成岩と水成岩は初生的な岩石であり、変成岩は1度できた岩石がもう1度以上変成作用を受けて、変化した岩石であるという点である。

## 【変成岩の肉眼的特徴】

八方山と白馬岳の間を流れる松川の谷で、転石を注意してみると、キラキラと輝く面をもって、この面から薄くはぎ取れるような岩石がまじっている。これは、白馬尻や、日向山の奥に産する絹雲母片岩という岩石が崩れて流れ出てきたものである。このように変成岩には、薄く板のようにはける性質や、黒白の縞を作る性質がしばしばみられる。このような板や縞の面を片理面と呼び山の露出では泥や砂でできた地層の層面を測るときのようにして、クリノメーターで測ることができる。

## 【顕微鏡観察】

このような岩石を顕微鏡でみると、写真Ⅰ及び写真Ⅱのように見える。



写真Ⅰ 絹雲母石英片岩、白馬尻産×20 Open nicol

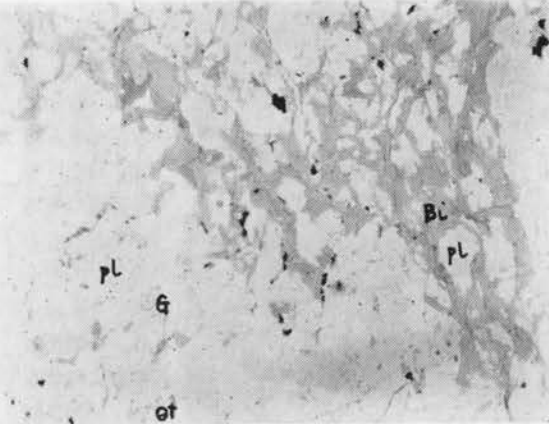
写真Ⅰは、白馬岳の絹雲母片岩で、細い糸を束ねたようなものが横に平行に並んでいる。写真Ⅱでは、右半分が粒が大きく、左半分が細粒である。写真Ⅰでは糸の束のような絹雲母が並んでいるので、この面からはげやすい性質をもっている。写真Ⅱでは、粒の大きい層には黒い鉱物が少なく、細粒層には黒い鉱物が多いので、肉眼では、白い層と黒い層の縞になってみえる。細粒の部分に含まれている黒い鉱物は黒雲母で、この鉱物は薄い板状のものであるが、これが細粒部の中で平行に(写真の縦の線と平行に)並んでいるので、この石もハンマーでたたくと平行に板のように割れる。

絹雲母や黒雲母に包まれるようにして、楕円形の白い鉱物が沢山みられる。写真Ⅰでは石英、写真Ⅱでは石英と長石とである。これらの鉱物を良くみると、その結晶の中に細かい他の鉱物が沢山含まれていて、この鉱物ができる前には、その場所を、別の種類の鉱物が占めていたことが考えられ、それらを置き換えて新しく石英や長石ができたことを理解できる。このような観察からもこの岩石が一度ある岩石としてでき上がったあとで再びこのような岩石に変化する過程のあったことがわかる。

## 【変成岩の産地】

長野県では、白馬岳周辺の外にも、槍ヶ岳附近にわずかと、赤石山脈に沿う広い地域にこのような変成岩が広く分布する。伊那一飯田地方を広く歩いてみると、このような変成岩が、変成を受けていない古生層の粘板岩、砂岩、凝灰岩(火山灰の固った岩石)などから、区別できない位、だんだんと変化して遂にはこのような変成岩に移り変わる様子が観察される。

(北海道大学理学部地質学教室)



Ⅱ 黒雲母片麻岩、槍ヶ岳附近産×20 Crossed nicol

## 大町雑感

興水太伸

職業柄、点々と県内を転任してあるくのであるが、長い間待ち望んでいた大町市在住が現実自分のものとなった。此の事は私にとって全く嬉しいことである。それは、私も自然を愛する者の一人であるからである。

長野県に生まれ、長野県に育った私であるが、此の大町の地を踏んだのは全く始めてである。かって写真に見文章に聞いた大町とその自然ではあるが、私には自分の郷里の様な気がする。転任早々先づは山岳博物館を尋ね、葛温泉、居谷里池、黒沢谷、鹿島沢に大谷原、私は只夢中でその自然に吸い込まれて廻った。全く楽しい全く嬉しい。

大きいという一語に尽きる日本の屋根アルプスの連山それに抱かれた大町の平野、仁科三湖、奥深い谷々、これは全くの自然研究の為の宝庫である。いやと云う程に山積する自然の研究テーマ、此の様な地はおそらく私の知る範囲に於て、県下にはまれであろう。

学校生活もようよう馴れて、子供達も一応は概観出来た今日、あれこれと大町に関する自然についての質問を試してみたが、仁科三湖の存在は返答出来るが、真にその湖は知らず山の存在は知るが、真にその山を知らぬ実状を異様に感じた。これは、あまりに恵まれた環境の中にいるからだろうとは思ったが、他面学校の予算(特に理科予算)を見て全くあきれて二の句が出なかった。前任校との比較をしてはいけなにしても、わずかに2~3クラスの規模でも、おそらく平の4倍はあったと記憶している。それでも不満々に過ぎた。それ以前の学校では比率にして又其の上位である。当平校の予算額は一体何だろうか?これで、よくも学校の運営がなされて来たものと、いささか其の妙技に敬服した次第である。幸にPTAと云う協力団体の援助で、苦しいとは申せ息をしている様ではあるが、これは決して好ましい現状であるとは云えない。市財政の苦しい現状も聞いたが、理科教育の振興、科学教育の高揚、全く何処吹く風の話である

日進月歩の今日の科学、それにマッチさせようと努力する教育の現場、最も基盤をなす小学校教育の為の予算が、現状の様では、前記児童の実態も又理解困難ではない。試に学校の理科関係備品に目を通してみよう。たしかに大量の備品は存在する。而しこれは過去に於てはこうであったと云う、遺物であり、骨董であるに過ぎぬ。此の現実の中で何処から次代を負う子供達の新しい科学する芽、考える頭、興味関心は又生活の合理化が生まれるであろうか。教育という仕事は現実には一銭の収入も得られない仕事である。而しドブ金ではない事を私は確信したい。大町的发展、而して北安的发展を期するな

ら先づは学校、社会教育に期待しなくてはならないではないだろうか?

私の生地で最近、私の道楽の為に村当局、教委、公民館挙げて私のコレクション館設立の運動をして下さっている。三月末に予算計上の為帰郷し、おそろおそろ20万円の予算計上をしたら「それで足りるか?」と50万円の増額をして下さった。村財政は決して安楽とは云えぬ、其の中での増額、私には下げた頭の上らぬ思いがし、同時に此処に私が生涯自分の生地発展の為に骨髄迄提供しても悔なきを感じた。而るに個人ならぬ公共の学校予算が、かくも苛酷に等しい現状で、誰が真に教育の実を挙げうるであろうか。

これは私の学校予算の一端から得た痛切な教育財政に対する訴である。

大町の自然、アルプスの山積する研究宝庫、而しこれ等が今日では、自然的要因と人工的要因に依って荒れ放題にされているのではないだろうかとの疑を感じる。自然的要因は防止に万全を期する訳にはゆかぬにせよ、人工的要因による防止の策は出来得ないとは云えない。近年登山の隆盛、観光開発事業の促進、資源開発等に依り動植物はその棲家を奪われつつある現状を考える時、自然的要因による消滅度より人工的要因による消滅度の方が如何に大であるかを私は考える。云う迄もなく、国立公園に指定され、天然記念物に指定され、表向きはかなり行き届いた保護はなされているとは申せ、動植物は、相手が相手だけに殆んど手放しの状態にあるのではないだろうか。資源開発の為の工事は、自然の保護など問題外と云わんばかりに強力で押し進められている。その影響は大規模であり抜本的である。残念ではあるが学術的に幾多の資料を提供してくれるアルプスは、今や前途に悲観的な暗い影を投じていると思う。狭い国土に多くの人間がひしめく日本、と云う宿命下では直の意味の自然保護など出来ないかも知れないが、近くは上高地、美ヶ原徳沢は今や〇〇蝶の棲息した所であったと云う過去形になりつつある、と云う事を耳にし誠に残念此の上ない事と思う。

先日当市在住のF氏にも「七倉周辺は、今小動物が衰退の一途をたどりつつある」とのお話を拝聴したり、又北方では、新潟県境にクプロクと名のつく採集家が県内に侵入し、職業意識と云う一段凄しい熱意と高度の技術を以って立ち向い、採集を欲しいままにして帰るとのことだが、これでは、大町の自然、長野県の自然が助かるはずはない。

学問の研究は、お互の研究結果を通じ合いお互に文化

の高揚をはかる為のものであるが、分布の資料を提供する事に依って、文化の高揚どころか、文化の低落の不安さえ感ずる始末である。これでは何の為の学問であり、何の為の研究であるかわからなくなって来、うかつに物が云えなくなって来る始末である。

前人の前時代の文化遺産を受けつぎ、これを後世に伝えることが、現代人の責務であるが、幸に当市には山岳博物館となる他に比類なき特色と実を持った組織と、施設がありこれが、前記自然保護の第一線に敢闘している訳であるが、此の重大責務を帯びた博物館がまた経済的な圧迫を受けつつあるということを目にし、一末の不安と悲しさを感じる。文化の進展は目に見えぬ。而してこれなくして大町の進展文化の向上は望めるであろうか。私は思う。心ある市民の声を結集して、これが防衛に立ち向かう要ある事を……。先日家庭訪問をして感じた事は、農耕用機械を始め、ラジオ、テレビ、オートバイはては家庭用電気器械の多い事である（過去に在職した土地に比べ時間的なすれのある事は事実だが）が、これは近年急な発展と普及によるとは云え、全て生活の合理化、日本文化の向上とも云えると思う。今後より以上に

普及され、合理化される事も事実で、現代の子供達は、此の上に立って何れの日にか自家の營業に携わるのである、この事を考えるにつけても、今の児童の科学的合理生活を営み得る教育の必要を痛感する。而してこの為の思考、判断、利用応用の能力は自然に湧き出するものではなく、児童の置かれる環境が、それを知らず知らずのうちに育成するものである。その為には、学校に於ては、児童に最も適した教材教具の豊富な配置が必要であり、何時でも自由に、その能力の伸長が助勢出来る態勢になければならず、校外も又同様でなければならないと思う。而るに本校の実状はルーペ一個、個々の児童に持たせる事が出来ず、校外に於ける最も適切な学習の場である博物館は瀕死の状能にまで追いやられているとは、一体何処から、科学する頭、科学する体が生まれるであろうか。

くどい様ではあるが、大町市の文化高揚の為にも、大町市のより良い進展の為にも、広く教育の場の充実と拡張を旨として、全市民の結束と、市政運営の当局者のより以上の理解とを願って、此の末稿を終える。

（大町市平小学校教諭）

## 信濃大町の白鳥物語（1）

オオハクチョウは博物館の名物いやむしろ大町市の名物として市の玄関口を守り、遠く訪れる旅人の旅情を慰め町の子どもたちを楽しませてきた。このオオハクチョウが、去る3月31日夜突然死亡した。その間11年、私たちに与えた貢績も大きく、博物館生みの親として、また大町へ文化の風を運んだ天使として未長くその恩は忘れることができない。あの猛暑の中を涼しげに泳いでいたオオハクチョウのイメージを胸奥深く刻みながらこの一連の悲しい白鳥物語を再びふりかえってみたい。

そしてはからずも同じストーリーを秘めて新しく入園したオオハクチョウを迎えることにしよう。

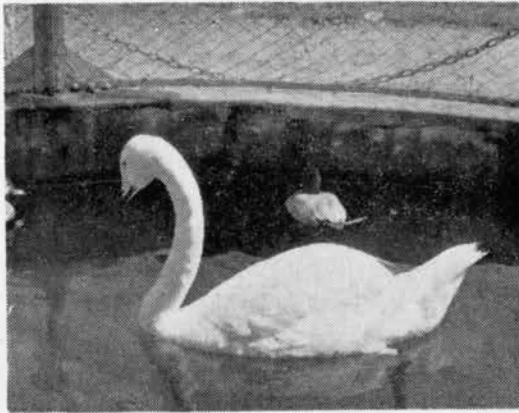
「昭和24年1月17日のことである。旬余にわたって猛吹雪が荒れ狂った早朝、27羽の真白いツルが青木湖に飛来していると、湖畔から通学している生徒がつけた。ツルが湖面に降りるはずはなく、それかといって白鳥は、当地では明治の終り頃一群が青木湖に飛来したことがあると古老より聞いていたのみであったから半信半疑ながら直ぐに5尺も積雪がある青木湖畔に駆けつけた。ところが時すでにおそく湖面にはいつもながらのように、数羽のカルガモをまじえたマガモを主とする約200羽の鴨類が見えるに過ぎなかった。

湖畔の人々に聞くに前夜半とつじょとしてコーコーというギターをならすような聞きなれぬ鳴き声を立てながら、湖上せましと飛びまわる大鳥の大きな羽音が起った

湖畔の人々は何もの出現かと大騒ぎして夜明けをまちかまえた。

しらじらと明けゆく朝の光にいつもは大きく見える鴨類をすっかり小さくして、ひときわ大きく、湖をせまく感じさせ27羽のツル（この土地ではサギ等白いものをすべてツルと呼ぶならわしがある）が神々しいまでに純白に光りかまやいて静かに遊べいでいた。人々がうっとりともみとれている中にやがて湖畔の餌師は持ちまへの狩獲本能に身をまかせ三そうの和船で取り囲むように接近して行った。ところが彼女たちはすでにカモ類が飛び立つて騒ぎ立てる中に、警戒する風もなく、たゞ近よる和船にふしぎそうにニョキニョキと首をのばしたにすぎなかった。従って三羽が射落され（オス2、メス1）のこりはみな北方の空に湖上を一回旋回して飛びさってしまった。というのである。」

以上は羽田健三著「信濃大町の白鳥物語」中オオハクチョウ渡来当時の模様である。もしこの時銃を向けずに安住の地を彼女らに与え、保護の手をさしのべたならば春までもとどまり、明春も、またその次の年も、年々数を増して飛来するようになったかも知れないと残念がられたものでした。湖面に写る白馬岳、そこにたわむれるオオハクチョウの群、雪国、山国である奥信濃の青木湖にも一やく「白鳥の湖」が出現したのであろう。この射落された一羽の白鳥は剥製標本となって博物館に展示され



親しまれてきた。

さてそれから5日ほどして、高瀬川の川原で白鳥が生捕りにされたのである。当時の状況をふたたび前記「白鳥物語」から引用してみたい。

「22日になると今度は大町より一里南の常盤村（今の常盤区）でまたまたまっ白いツルを生け捕りにして飼っているという知らせを同好の生徒がもたらした。標本用のオオハクチョウでさんざん手をやいて、いやな思いをした後なので、だいぶ思案したけれども、ひとりでは足は常盤村に向いていた。現場につくとオオハクチョウが鶏舎の一隅をわけた一坪ほどの所に飼われていた。どこにもけがをしている風はなくなせ生け捕りになったのか

見当がつかなかった。聞いてみると20日のこと、大町より半里すなわち青木湖より三里南に当る社村（今の社区）地籍の高瀬川原の開墾田でその人たちが作業中いつのまにかすぐかたわらにまっ白い巨大なツルが降下して人を恐れずつたっていた。4人がこれを包囲して近よるとふしぎなことにな易く捕まってしまった。あまり人を恐れずかわいらしいので殺さずに飼っているというのである。そこで私はこの鳥は禁鳥であり、みなさんが飼っているわけにはいかないからぜひ博物館にゆすり受けたい。と申した所この鳥のために一日作業を休んでいるから4人分の日当を頂きたい。でなければ死んだものを拾った事にして食べてしまうという。そこで4人分1000円としてゆすり受け、持ち帰ったのが駅前に飼われているオオハクチョウである。」

雌雄の愛情が強いオオハクチョウは17日青木湖で射落されたつれ合いの雄をさがし求め、疲労と空腹のため、ついに力果て高瀬川の川原におりたのであった。

オオハクチョウは樺太でわずか、多くはシベリヤ、カムチッカなど北方の寒地で繁殖し、わが国へは冬鳥の代表的なものとして10月から2月頃渡来し、3月から4月上旬にかけて生まれ故郷に渡り去って行く。オオハクチョウが毎年渡来してくるところに北海道の根室にある風連湖（ふうれんこ）がある。その数は2—3000羽というから壮観なものである。（つづく）

（高橋 山博学芸員）

## 中綱湖畔「黒沢高原」に 春の昆虫を訪ねて (1)

倉田 稔

春はモンシロチョウに乗ってくる

菜の花とモンシロチョウによつて訪れた春も、今はもうすっかり夏の気配をただよわせている。北アルプス山麓の春は本当に短い。こんな短い春ではあるが、この春こそ長い間重く暗い雪の下に閉じ込められていた昆虫達にとっては、生涯唯一の憩の季節であり繁栄の季節であるのだ。春の野山にたむろし、あるいは飛翔し、あるいは躍びまわっている昆虫達をながめる時、私達の胸の中には「生命の喜び」にも例えられる一種の躍動感がみちてくるのである。春と言ってももう夏のような一日、中綱湖畔にある黒沢高原に春の昆虫達の姿を追って



黒沢高原より釜ガ岳



越冬中のツネントンボ

みた。

#### 黒沢高原は待つている

黒沢高原は中綱湖の西方約2 Kmの位置にある標高約1000mの準高層湿原で、湿原からは、ビョウブの如くそそり立つ、残雪輝く雄大な爺ガ岳、鹿島槍を頭上に一望する事ができるエキゾチックな高原である。高原を越えれば、鹿島槍の登山口である鹿島部落へもわずかでいける。黒沢高原は、春のツツジ、夏の緑、秋のモミジ、冬のスキーと大町附近唯一のすばらしい高原である。国鉄大糸線築場駅で下車すると眼前に中綱湖が千古の謎を秘めたが如く静かに横たわっている。その上に重なるように黒沢高原の台地がみえる。

#### 春のトンボ類

中綱湖を渡り中綱部落へ通ずる道の両側にはシオヤトンボとシオカラトンボが春の日ざしを両翅一つばいに受けて群れている。近すくと両翅で太陽の光をキラキラ反射させながら飛び散っていく。シオヤトンボはトンボ類の中で春に最も早く出る種類で、幼虫は体長1.3cm位で小川や水田に多くいて「ヤゴ」を呼ばれている。シオヤトンボは5月上、中旬頃に最も盛んに羽化する。羽化すると弱々しい翅のまゝでどンドン山の中へ飛んで行き、水気の全然ないような山間の乾燥地やススキ草原でしばらく群れとんでおり、やがて翅も丈夫になり飛ぶ力

も大きくなると自分の生まれた水辺に帰ってきて生活をする。

トンボ類が羽化する時には一般に水中にはえている草の茎を又はくい棒などをよじ登り水面上10cm～1m前後のところ、しっかり茎や棒につかまったまゝ羽化する羽化は主に早朝に多いようである。

シオヤトンボの雌は胴体がムギワラ色をしており、雄は白色をしている。子供達はムギワラトンボと呼んでいる。子供達が呼ぶムギワラトンボの中にはシオヤトンボシオカラトンボ、オオシオカラトンボの3種が含まれている。5月中旬を過ぎるとシオカラトンボが又、初夏になるとオオシオカラトンボがそれぞれ羽化してきて、長い間ムギワラトンボとしてその姿をみせてくれる。

中綱部落へ入ると道ばたには体がツマヨウジより更に細いオツネントンボやホソミオツネントンボがいる。トンボ類はほとんど幼虫で冬越しをするのであるが、この2種は成虫で冬越しをする。オツネントンボは中部日本以北に棲息し、ホソミオツネントンボは中部日本以南に棲息するという珍しいものでこの両者が本地方には棲息している。これらのトンボはいずれも草原で冬越ししている。

#### 春のチョウ類

中綱部落のまわりにはこれらの越冬したトンボ類と共に越冬から目覚めた、クジャクチョウやキタテハ、ルリタテハなどが路傍で日ざしを全身に受けて翅を休めている。クジャクチョウは美しいクジャク斑のはねから太陽の光をニジ色に反射させている。これらの成虫で越冬した蝶類は産卵前なのでお腹の中に卵をいっぱい抱いている。クジャクチョウはイラクサやカラハナソウの葉のうらに50～60もの卵を一かたまりに産みつけるが、キタテハはまだ伸び始めのカナムグラの新芽に一卵ずつ点々と産みつけていく。そしてクジャクチョウは8、9月に、キタテハは7月にはもう新しい成虫となって再び冬を迎えるため体に脂肪を貯えていくのである。

(大町第一中学校教諭山博学芸員)

#### お願い

青葉若葉のおい茂る候となりました。毎月発行の「山と博物館」大変発行が遅れ恐縮いたしております。35年度大町市は地財法の準用をうけ予算を大巾に削減され、いきおいそれが社会教育機関にもひびきご覧のように紙質も下げ、更に凸版を減らすような結果になりました。本号は4、5月合併号といたしましたので悪しからずご了承下さい。なお旧にも増して、ご購読、ご援助のほどお願いいたすとともにみなさんのご投稿をおまちします。



# 山岳名を冠した植物(2)

寺島虎男

## A. 立山連峰・立山3015m、剣岳3003m (日本北アルプス)

- |              |  |                   |   |
|--------------|--|-------------------|---|
| 1. タテヤマギク    | <i>Aster dimorphophyllus</i> Franchet Savatier.            | きく科、シオン属          | 一名ダルマギク<br>頭花は長梗あり繖房花序<br>総苞は筒状           |
| 2. タテヤマアザミ   | <i>Cacalia Chokaiense</i> Kitamura                         | きく科、アザミ属          | 高さ40—100cm<br>総苞は中片、外片は上手開<br>出又は反曲する     |
| 3. タテヤマチングルマ | <i>Sieversia pentapetala</i> form<br><i>rosacea</i> Takeda | ばら科、ダイコンソウ属       | 時に高層湿原に生ず<br>群落性                          |
| 4. タテヤマキンバイ  | <i>Sibfaldia prveumbens</i> Linnaeus                       | ばら科、タテヤマキンバイ<br>属 | 矮小灌木、小葉3個は同形<br>楔形<br>花序は10花内外密生          |
| 5. タテヤマハギ    | <i>Lespedeza neo formosa</i> Okuyama                       | まめ科、ハギ属           |   |
| 6. タテヤマオウギ   | <i>Hedysarum ussuriense</i><br>Schischk. et komar.         | まめ科、イワオウギ属        | 一名イワオウギ<br>小葉は11—25個<br>竜骨弁は多弁より遙かに長<br>い |
| 7. タテヤマリンドウ  | <i>Gentiana T. G. var. minor</i><br>Maximowicz             | りんどう科、リンドウ属       | 一名コミヤマリンドウ<br>湿原性の高山型                     |
| 8. タテヤマウツボグサ | <i>Prunella prunelliformis</i> Makino                      | しそ科、ウツボグサ属        | 花穂、密花<br>苞3角状心形<br>花冠25—32mm              |
| 9. タテヤマザサ    | <i>Sasa brachyphlla</i> Nakai.                             | たけ科、ササ属           |   |
| 10. タテヤマスゲ   | <i>Carex aphyllopus</i> Kuekenenthal                       | かやつりぐさ科、スゲ属       | 稈の基部は赤紫色<br>果実は広卵形、クチバシは<br>短い            |
| 11. タテヤママイ   | <i>Juncus beringensis</i> Buchen                           |                   | 一名ミヤママイ<br>葉は茎の基に鱗状<br>花被黒褐色              |

## B. 三国山脈

谷川岳1963m

- |             |  |               |                                       |
|-------------|--|---------------|---------------------------------------|
| 1. タニガワハンノキ | <i>Alnus hisusuta</i> Turczaninow<br>Var. <i>microphylla</i> Kusaka  | かばのき科、ハンノキ属   | 上高地にもあり                               |
| 2. タニガワツクバネ | <i>Buckleya</i> Var. <i>tanigawaensis</i>                            | びやくだん科、ツクバネ属  |                                       |
| 3. タニガワコンギク | <i>Aster micromackii</i> Nakai Var.<br><i>ripensis</i> MaKino        | きく科、シオン属      | 葉は線状披針形、線形<br>花は長梗あり唇紫色<br>総苞は大形で5mm位 |
| 4. タニガワコザクラ | <i>Primula cuneifolia</i> Ledeb Var.<br><i>tanigawensis</i> Tatewaki | さくらそう科、サクラソウ属 | ハクサンコザクラや<br>ユキワリソウに近縁の種              |

## C. 白山火山帯 白山御前岳2702m、その他二山 白山2702m

- |               |  |                     |  |
|---------------|--|---------------------|--|
| 1. ハクサンカニコウモリ | <i>Cacalia cuneata</i> Kitamura  | きく科、コウモリ属           | 間種<br>オオカニコウモリ×オオバ<br>コウモリ                           |
| 2. ハクサンアザミ    | <i>Cacalia Matsumurae</i> Nakai  | きく科、アザミ属            |  |
| 3. ハクサンイチゲ    | <i>Anemone norcissiflora</i><br>Linnaeus   | きんぼうげ科、イチリンソ<br>ウ属  | 根葉は長柄あり円心形、3<br>全裂、側片は更に深く2裂<br>小花梗は5—6個、果実には<br>翼あり |
| 4. ハクサンシヤジン   | <i>Adenophora triphylla</i> A.DE<br><i>Candolla</i> Var. <i>Hakusanensis</i><br>Kitamura | きぎょう科、ツリガネニン<br>ジン属 | ツリガネニンジンの高山タ<br>イプ、花序の枝伸長せずに<br>やゝ総状で花を密集            |
| 5. ハクサンフウロ    | <i>Geranium yesoense</i> Franchet<br>Var. <i>nipponicum</i> Nakai                        | ふうろそう科、フウロソウ<br>属   | 葉は掌状に5—7深裂<br>裂片はヒシ形状倒卵形<br>茎には下向伏毛を布く               |

# 会報きりぬき

## 山の言葉

北アへ行くとき山男が「しらかんば」と云うのが変に耳に残っている。乗鞍の麓に「白骨」と云う温泉がある「しらほね」と読ませるらしい。金沢第九師団の衛生病院の横に「尻垂れ坂」がある。敗戦直前のドサクサ中だったが前田藩百万石のお庭の中に妙な名前の坂だと気になった。みんな先住民族が残した言葉らしい。奈良朝に唐学者が漢字の当字をあてたものと私は解している。

### SHIR (山、断崖の意)

- SHIR-NE 白根山
- SHIR-KA 駿河
- SHIR-U-MA 白馬山
- SHIR-P-NE 白骨
- SHIR-TA-RE 尻垂れ坂
- SHIR-P-YA 渋谷
- SHIR-KON-PA 白樺の樹

### SHIN (山の意)

- SHIN-NU 信濃(科野国)
- SHIN-NU-TA 篠田の森
- I-SHIN-NU 吉野(芳野山)
- I-SHIN-KE 吉城

### KOM (小山の意)

- KOM-RO 小諸
- KOM-P 昆布山
- A-KOM 阿寒
- I-KOM-MA 生駒山
- KOM-NU-PE 神奈備(小山だらけの所)
- KOM-NU-USHI 釜無川(山だらけの所)

### KOP (木山、灌木の山)

- KOP-OT-KE 小仏峠
- KOP-KE 頸城山塊

### KIM (奥山の意)

金峰、金鷲、金時、喜美内(樺太)

### AMAN (高い山の下在意)

天城山、越中雨晴海岸

### ARI (高い山の意)

- ARI-MA 有馬山
- ARI-ORO 有浦(山の内の意)

### HARI (高地、高原の意)

針ノ木峠 榛名 針尾 三春 名張 新治

### TU, TUK (山の走り根の意)

- TU-RU 都留、鶴見
- TU-K-PA 筑波
- E-TUK-USHI-MA 巖島  
PAKE (主峰、平地に突出した丘)
- PAKE-NE 箱根
- PAKE-ORO 羽黒山
- PAKE-OTO 八甲田山
- I-PAKE 伊吹山
- PAKE-I 八海山 八景坂
- KURU, GURU (岩山の意)
- 黒部、黒姫、位山、鞍馬、強羅、双六岳  
黒松山

### KURU-PE-GURO-O 黒部五郎岳

### TAP (孤峰、目立っ山)

- 大和 多武峰 手向山 塔の沢 塔の峰
- 塔の岳 堂ヶ島 田子 蛸島 蛸薬師

### TAR-KE (峠)

板橋の江古田はアイヌの故郷の意らしい。武蔵野の I-KO-TA、大きい一つの丘の意、狩猟人アイヌとしては故郷であったかもしれない、渋谷と江古田が出たついでに……

### YA-RAI (山の走り根を下る処) 矢来

### OK (頸、岬の意) 尾久

### ET-OK (突出したところ) 潮来

### MA-O-MA (入江の内の意) 真間 真饒 舞子

(老らく山岳会 NO6より)

## ヤッホー音響楽

山に登って面白く感ずるもの一つに、このヤッホーと云う掛声がある。そしてそれは耳に聞いて気持のよい声であるばかりでなく、自分が遠くの人に呼びかけるに誠に具合のよい、呼び方だということがわかる。誠に私たちが遠くにいる人を呼ぶのにどんな声を出すのが一番良いかと考えてみると、それは結局一番通りの良い音、すなわちアイウエオの5母音の内のどれか一つ又はその組合せしかないことがすぐわかる。このうちイやウやエは口を食い縛ったり、咽喉をおしつけたりする嫌いがあるのでそれらを避けるとすればあとに残るのはアとオとその組合せしかない。そこで今仮にア-オーと云う組合せを作ったとすると、これは確かに良い組合せの一つである。しかし実際に発音してみると、これではあまりに空で声に力が入りにくいことに気づく。ア-オーと云う声を力よく出すためには声の初頭に特に弾みをつけること、すなわち声学で用いられるアタックの技法を必要とする。だがこのようなむずかしい技法をさせて万人向きな方法と考えると見る一つの方法として今アにヤと配してヤア-とし、オにホを配してホア-としてみるとヤア-

ホオー、すなわちヤーオーとなる。故にこれは誰でも力強く発声することができて仲々合理的な呼び声だという

(気象庁山岳部溪流より)

## 御 守

〓御守〓といっても今の若い人には何かピンとこないものがあるだろうが、山歩きをする人の腰に小さな〓御守袋〓がぶらさがっているのをよく見かけることがある。およそ現代はなれした格好に見えるが本人は何か一つの安心感をもっているのだろうか？事故にあって本人は無傷だったが、あとで調べてみると守札が割れていた、とか、たまたまそれを忘れたために災難にあったとかいう話しを田舎の老人から時には聞く。勿論、今の若い方々は一笑いしてしまうだろうが、私にはなぜか笑いきれないものがある、というのは私自身その様なことを経験したからである。いつの世にも希望者の絶える事のない守札、護符の類は古代ローマの時代からあったという、古くには神官、僧侶等がありがたい文句を唱えながら一枚一枚手書きにしたものであるが、15世紀の頃活版印刷の元祖ルーテンベルグがドイツ教会で信者に頒布する護符の印刷を引受けたという話がある、16世紀になるに及んで、この札を大量に売出し、なかば営利事業化した、またローマのセントペテロ寺院の建立のために神学者までが一役加わってますますこの傾向が強くなり遂にはルーテルの〓宗教改革〓の遠因ともなっている。吾国では仏教の伝来とともに〓守(もり)〓の功德が説かれ、これが神社えも伝わり今日の形態をなしている。

## コムクドリ

長 沢 修 介

ムクドリ科であるがムクドリよりも小型で頭の灰色、翼の紫色に輝くなどムクドリよりもずっと美しく声も悪くない。4~5月頃飛来し木の洞や建物、石垣などに営巣する。主として森林に棲んでいるが人家附近でも多く見ることができ、かって人家の屋根の頂にのせた木が腐って洞になったのを利用して巣をかまえたのを見たことがある。桜の花も散り葉桜から実が赤くなる頃に飛来するので別名をサクラドリとも呼ばれる。又桜の実も啄むようである。幼少の頃、私の家の近くに大きなリンゴ畑がありその畑のリンゴの木は年数を経ていて穴のあるものが沢山あった。それ等の穴には毎年ムクドリやコムクドリが来て営巣したがコムクドリの巣は特にニワトリの羽毛を多く入れてあり真白な羽毛の中にあの青緑色の美しい卵が産み込まれているのは子供心にも何か神秘的な感じを抱かせたことを記憶している。そのため今でもコムクドリと言えばあのニワトリの純白の羽毛の一つぱい

天平8年(776年)称徳天皇の御代に十大国分寺に納められた6種の呪符(陀羅尼)は世界最古の印刷物として残っている。大は何万円の護摩札から小は田舎の小さな寺で住職夫妻が夜長のすきびに木版でしあげる南無阿彌陀仏の札まであるが変ったものでは江戸時代の〓文銭のお守札〓がある、これは寛永通宝の一種で豊徳阿家の悶着の種となった京都方向寺の大仏を徳川幕府が鑄つぶして作った穴あき銭で、大仏の分身だから厄除けになるばかりか小遣銭に困ることがないなど珍重された。文銭は身を守るというところから転じて文銭尺、つまり文銭の直径(曲尺で8分)を一文と称し足袋尺の一文としたという、このためか武者修業の武士は必ずと云えるほど革足袋をはいたというがこれなどはどうだろうか。昔から現代に伝わるものとしては毎年歳の市に売られる熊手節分の晩に軒にさす終にさした鯛の頭etc.がある。今はまったく見ることができないが戦前はやった千人針などは完全なる〓御守〓であった。又内容的に違ってくるが〓ジンス〓というのがある、しかしこれもなにか精神的なよりどころを求める点において一脈相通するところがある。ところが皆の信心が高まるにつれて悪事を企む奴が現われ高野山の僧をまねたいでたちで弘法大師の護摩を焚いた灰だから功德があると称し、怪しげな灰を売り歩いた、それが今に残る〓ゴマの灰〓の起源である。とにかくアクセサリーほどの気持でも〓御守〓袋を腰にブラ下げているなんて姿もまんざらすてたものでもあるまい。(横浜山岳会報より)

入った美しい巣を思い出す。

この鳥の一日中の育雛状態を調べた人があってその人の調査によると行動時間は朝の4時から夕方の7時迄の15時間、餌を運んだ回数は何と280回、1回に1匹の虫を運ぶとしても1日に280匹の虫を駆除するわけである。実際は2匹以上運ぶこともあるし、自分でも食べるのだから大変な数となり、いかに有益な鳥であるかも解る。



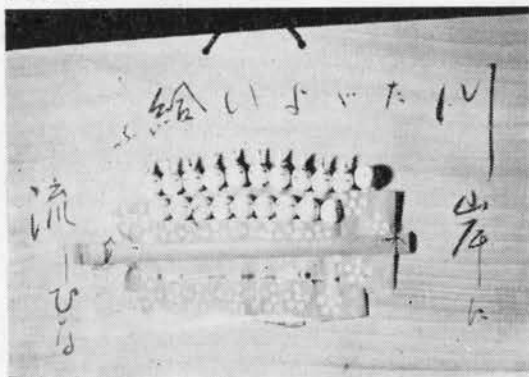
# ○ 各地の民芸 ○

## 流しびな

### 鳥取県鳥取市

吾が国では古代から縁起の悪い時は袂いや御褌をしました。飛鳥時代には「ひとかた」（人形）を作って、これに自分の息をふきかけて、自分の身体をこすって、心の中の汚れ厄いをこれにうつして川に流し身を清める行事がされていました。鳥取の流しびなは足利時代から伝わっていると云われますが、流しびなの最も古い文献は源氏物語の須磨の巻に、源氏光君が巳の日に小舟にひなのをのせて流されたことが記されています。昔は全国にあった風習で各地とも神社仏閣で出していました鳥取市のみ、おもちゃ屋、荒物屋、雑店で売っています事と赤紙に金の袴、烏帽子、簡素な白い模様、青竹に十女男夫はさみある等美的なことと有名です。全国で只一つ鳥取

市のみがこの流しびなの風習が残っているのです。3月の雛節句に買い求めてお飾りし、去年買った分を、おしきに乗せ、ひしもち、おいり、桃の花の小枝をそえて清い川に流すのです。

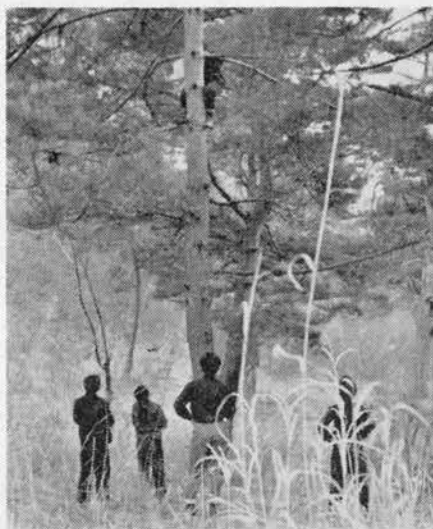


## 巣箱コンクール行わる

本館と大町営林署、北安地方事務所林務課共催 信濃毎日新聞社後援で行われて来た、小鳥の巣箱コンクールは去る15日、各関係者によって審査が行なわれ、その結果次の人たちに賞状と賞品が送られた。

- |     |       |       |        |
|-----|-------|-------|--------|
| 館長賞 | 平林喜人  | 石原郁三  | 両君共同作品 |
| 優良賞 | 田中ひろし | 西沢宏   |        |
| 努力賞 | 小林益男  | 成沢みさ子 |        |
| 佳作  | 宮田益男  | 飯島憲一  | 青木昭夫   |
|     | 平林喜人  | 石原郁三  | 西沢達郎   |

そのあと博物館友の会のみなさんによっていくつかの巣箱が園内にかけてられた。



## 会報集まる

当博物館の山岳図書室充実計画の一環として行なわれている山岳団体機関紙収集にあたっては全国各地の御協力が得られ現在下記の団体から会報がとどけられております。ここに紙上をかりて厚くお礼申し上げますとともに一層の御援助をお願いいたします。

機関紙を奇贈された団体（カッコ内は誌名敬称略）  
 岳友クラブ（岳友）、朝日新聞東京本社山とスキーの会（会報） 敦賀山の会（かもしか） 中央大学学生会体育部山岳部（部報）、溪峰山岳会（溪峰） 広島山の会（山毛榉林） 早稲田大学ワンダーフォーゲル部（彷徨）、横浜税関山岳部（裡火）

お願い 本紙の購読ご希望の方は1カ年購読料170円（郵送料とも）を現金書留または郵便替為、郵便切手で長野県大町市、大町山岳博物館あてご送金下さい。 大町山岳博物館

山と博物館 第5巻第4.5号 1960年5月25日発行  
 発行所 長野県大町市TEL（大町）211  
 大町山岳博物館  
 印刷所 大町市上中町  
 信州印刷大町工場